

学界消息

史学研究会関係

史学研究会大会は、恒例により十一月一日二日開催した。一日(金)の京都の庭園観賞は修学院離宮、三千院、大徳寺本坊、同大仙院、同真珠庵、同孤蓬庵、東本願寺枳殻邸を、森蘊氏(奈良文化財研究所)の精緻な説明の下に見学した。二日(土)大会及び総会は京大法経第五教室にて開催した。総会は宮崎理事長の挨拶に始まり、織田理事より会務、会計報告が行われ、会計報告は承認を受けた。当日の講演は次の通りである。

国史関係

読史会秋季見学旅行

一〇月一三日(日)～一五日(火)
高山郷土館・同陣屋跡・同国分寺址、神岡
欽山・富山立山信仰関係遺跡・大岩日石寺
等を巡訪。

読史会秋季大会 一一月三日(祝)

午前九時半 於京大法経第五教室

近世初頭の土豪経営について 脇田 修

中世における商業の問題 松山 宏

——都市形成の前提として——

日中両国における初期自由民権運動の比較 彭 沢周

中世史料にあらわれた姫路附近の古代遺制 東郷 松郎

幕末における横浜の外国居留地問題 秋本 益利

初期日蓮宗不受不施派の思想と其の社会的 藤井 学

基盤

古代日本の奴婢制説についての疑義 石沢 澈

——諸家の近業をよみて——

明治労働運動史論 山本 四郎

和珅氏に関する基礎的考察 岸 俊男

諸大寺における修正会・修二会について 五来 重

東洋史関係

ユネスコ「東西文化交渉史に関する
国際シンポジウム」

東京会議 中央大学会館

十月二十八日(月)～十一月一日(金)

日本をはじめ米・英・ソ・仏など十九ヶ

国から集った五十七名の歴史学者のほ

か、多数のオブザーバーも出席して全体

会議及び歴史考古美術、思想、民族言語

各部会の研究発表と討論を行った。

京都部会 十一月四日(月)午前十時 京

都大学人文科学研究所講堂

長広敏雄・小林太市郎・オコラドニコフ氏

の研究発表と討論、及びハイネ氏の講演等

が行われた。

東洋史談話会大会、十一月三日(祝)

午前九時 京大人文学研究所講堂

中国史分期論の問題点 内藤 戊申

南宋建國期における商人の活躍と武將 山内 正博

明代蒙古社会に関する一考察 萩原 淳平

嘉・道間の財政と官僚の性格 鈴木 中正

譚嗣同と唐才常 小野川秀美

アッバス朝時代の商業資本について 佐藤圭四郎

突厥のイールについて 佐藤 雅夫

——ソヴェエト諸学者の見解——

吐蕃王統論の一問題について 佐藤 長

乾隆時代の戦争画について

ワルター・フックス

中国の人口と耕地 小竹 文夫

宋代の効用軍について 曾我部静雄

西洋史関係

第二五回西洋史讀書会大会 十一月三日(日)

午前九時半～午後五時、京大薬友会館

ローマ工業奴隷のベクーリウムについて

——特に共和政末・帝政初期の陶器

工業に於ける—— 馬場 典明

キェフ・ロシアとスカンディナヴィア 木崎 良平

中世後期のドイツの村落共同体 中村賢次郎

トーマス・モアについて 大沢 基

イングランド革命における議會・軍隊・民衆 隅田 哲司

十七世紀西班牙の回教徒追放問題の一断面 岩谷十二郎

アメリカ独立革命における土地問題と西部の情況

——ペンシルヴェニアの場合—— 武則 忠貞

シェイズ叛乱の背景について

——合衆國憲法制定理解への一前提—— 池本 幸三

三月革命における農民運動 末川 清

——ジュネーヴ・ジュネウ州を中心として—— 広実源太郎

革命と学生

地理学関係

人文地理学会第二二会例会 十月十二日(土)

奈良女子大学

陶磁器業の分布について 藤森 勉

南豆漁村地域社会の機能的変容について

——風待ち港の性格変化を対象に—— 細井 淳一

歴史地理とは 森 鹿三

考古学関係

考古学協会第二十回総会 奈良青々中学校

シンポジウム 十月三十日(水)

中国考古学の現状

新石器時代(先史) 水野 清一

青銅器時代(殷周) 樋口 隆康

鉄器時代(秦漢以後) 岡崎 敬

研究発表 十月三十一日(木)

男女倉遺跡第二次調査について 藤沢宗平 ほか

長野県下水内郡横倉発見のポイント 神田五六 ほか

河内国府遺跡調査略報 島 五郎 ほか

東京都本郷区通し北貝塚 平沢 一久

御蔵島ゾウ遺跡の再調査 麻生 優

宮崎県児湯郡川南町の弥生後期の住居址について 石川恒太郎

北九州支石墓内の献供用土器について 梶尾 禎作

種子島南種子町広田海岸の埋葬遺跡 国分直一 ほか

昭和三十一年度山口県土井ヶ浜遺跡調査概報 金関 丈夫

本州の西端地方における弥生式壺棺墓の性格 小野 忠勲

広島県における弥生時代の墓葬について 潮見 浩

伊豆・利島ケツケイ山遺跡の調査 大塚 初重

唐津市東字木サコガシラ古墳群調査概報 秋山 進午

古墳群を通じてみた中国地方の一盆地における村落構成について 木下 忠

古墳の周辺施設 末永 雅雄

紀伊東国山古墳群第一次調査報告 金谷 克己

須坂市鍛塚一・二号墳の調査 亀井正道 ほか

千葉県野田市川間香取原の二古墳 下津谷達男

大和川船橋遺跡調査概報 原口 正三

美濃市大矢田丸山古窯址群の調査 樋崎 彰一

木更津市江川火葬墓 保坂三郎 ほか

一九五六年度毛越寺伽藍跡出土遺物について 中川 成夫

陸奥国分寺址の発掘 伊東 信雄

淮河流域の青銅器について 市川健二郎